
あの春の物語

苺 うさぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの春の物語

【著者名】

苅 つかさ

N0752A

【作者名】

あらすじ

産まれてくるはずだった、子供との夢のような生活をして伸びるわかれ

プロローグ

『いや……ダメ…………』

またこの夢だ。

この時期になると、必ず見る夢。

『うなされてたよ……大丈夫?』

となりで寝ていた彼氏、ノゾミが心配そうに元気む。

「うふ……またあの夢見ちゃって……」

あの夢とは、私の宝物になるはずだった子供を中絶する夢。

無機質な手術室と冷たい診察台の感触、無表情な医者の顔。

あの時の光景が今も夢にてぐるのだ。

「そりか……忘れろつて書つのも無理な話しだけど……
自分を責めすぎなんじゃないのか?」

「でも……」

それ以上は一人とも続ける言葉がなかった。

3年前の春。とても穏やかな日。

私は人生のどん底にいた。

当時付き合っていた、ソウタの子供を妊娠。

二人で話しあつたあげく、産むという結論がでたのだが、その後ソウタの浮気、浪費、暴力が重なり別れることに。子供は一人で育てるつもりの私に、相手の親が無理矢理病院へ連れ込まれ中絶させられた。

あの時私がもつと強ければ、子供を守れたのに…

あの時…あの時…

そういうとももう時間は戻らない。

残つたのは罪悪感と後悔だけだった。

そして現在。

そんな自暴自棄を救つてくれた、ノゾミと同棲している。

今年中には結婚する予定で、平凡な幸せの日々を送つてはいる。だけど未だにあのこが産まれるはずだった予定日になると、生きていたら…ちゃんと育ててあげいたら…って思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0752a/>

あの春の物語

2010年10月21日22時26分発行